様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	臨床心理士養成コース ／久米　禎子

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

専門である臨床心理学の知見を学校現場で生かすために，学校現場に即した事例の見方や対応について取り上げてきた。今年度は，学生のニーズもふまえて，より具体的でわかりやすい，現場での実践のヒントになるような内容にしていきたいと考える。

2．点検・評価

中間報告でも述べたように，前期授業「カウンセリング論」（学部3年生必修）では，心理学的なものの見方，関わりの持ち方について新たな視点を獲得することにより，教師としての視点の広がりを目指した。後期授業「発達臨床心理アセスメント」においては，学生が実施し分析した心理検査のレポートを添削して返却し，学生が自らを振り返る一助とした。また，「発達心理学」においては，青年期を生涯発達の観点から位置づけて，学校教育との関連で理解できるように工夫した。目標はおおむね達成されたと考える。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

学生の進路，悩み等の相談に随時応じ，支援を行いたい。学部3年生の担任であるので，学生が教育実習に積極的に取り組み，安心して学生生活を送れるようにサポートしていきたい。

２．点検・評価

学校教育コース3年生の担任として，模擬授業の実践を通して，教育実習に向けて意識を高めるとともに，教師としての意識・技量を高める関わりを行った。また，合宿や，就職ガイダンスにおいて，教員採用試験での面接についての助言を行い，自分を客観的に捉えることや，教師という職業観を作り上げることへの助力をした。大学院においても指導する学生の相談に随時応じ，学生それぞれが自分の課題を達成したり，目指す方向に進んでいくことができた。目標は達成されたと考える。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

これまで収集した箱庭療法に関するデータをもとに，論文をまとめる予定である。その成果を学会誌に投稿したいと考えている。

２．点検・評価

鳴門教育大学研究紀要に幼稚園における子育て支援の活動を「幼稚園でのプレイセラピーの実践研究−幼児の「育つ力」と子育て支援としての効果−」として発表した（共著）。また，鳴門教育大学心理・相談室紀要に「親子並行面接におけるシェアリングをめぐって」というタイトルで，これまでの大学院生への面接指導の経験をもとに，臨床心理士を目指す大学院生に学んでほしいことを論文にまとめた。箱庭療法に関する研究は，まだデータ分析の途中であり，来年度論文の形でまとめたいと考えている。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

とくに，大学院入試委員会の委員として，入試業務や大学院広報の点で，大学の運営に寄与したい。

２．点検・評価

大学院入試委員会委員として，入試業務や大学院広報業務を行った。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

スクールカウンセラーとして附属幼稚園・小学校との連携を図りたい。
また，徳島県および徳島市の教育委員会と連携して，不登校児童・生徒への支援活動を行いたい。

2．点検・評価

附属小学校および中学校のスクールカウンセラーとして相談活動を行った。また，徳島県および徳島市と連携し，不登校児童・生徒に対する大学院生の家庭訪問による支援を行った。
さらに徳島県教育委員会の「学校問題解決支援チーム」として，徳島県内の学校に派遣され，不登校等の相談に応じ，自分の専門を生かした地域への貢献ができたと考える。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）